

平成 29 年度市民対話集会会議録

日 時：平成 29 年 9 月 22 日（金）10 時 00 分

場 所：消防本部 3 階講堂

団体名：岡崎市保育園父母の会連絡協議会

52 名

内 容：①開会

②市政ビデオの放映

③市長挨拶・説明

④団体代表要望・意見等

⑤その他要望等

市長― 皆さまこんにちは。市長の内田でございます。本日は大変お忙しい中、こうして市民対話集会にご臨席を賜りまして、誠にありがとうございます。父母の会の皆さまがたには、日頃より本市の保育行政や保育園運営に関しまして、格別のご理解とご協力をいただきまして、そのことに感謝をしたいと思います。

本市の保育園の施設整備等につきましては、山中保育園や私立美合保育園におきまして、園舎の改築など、ただ今着々と工事が進んでいるところでありまして、予定どおりの完成が見込まれている状態であります。

さらに、JR 岡崎駅近くに建設をいたします南部乳児保育園も、今月の 7 日には安全祈願祭を終えまして、来年の 4 月には開園する見通しとなっております。他にも私立保育園につきましては、昨年度から施設の耐久年数の調査を実施しておりまして、調査結果を今後の各園の施設整備に反映してまいりたいというふうに考えおります。長寿命化のために改修工事を支援するとともに、さらなる園児の安全管理に努めてまいりたいと思っております。

さて、この市民対話集会でありますけれども、市長就任以来、合計 5 年間で 43 回目となるわけでありまして。また各種講演会や政策の説明会など、さまざまな機会を捉えまして、この前は小学校、中学校、大学生のセミナーでございましたけれども、300 回以上の講習会を持ちまして、私の目指す市政についてのお話をさせていただいているところでございます。こうした形で市民の理解を深めながら、行政を行っているケースというのは、全国でもまれなことと自負しております。これは私が理想としております、顔の見える民主主義の実現への第一歩であると考えておりまして、それが実際にできますこの岡崎市というものを大変誇りに思っております。大都市に見られますような、時の風に左右されてしまう大衆扇動型の政治というのは、結局のところ、無駄が多く損失のみ残るわけでありまして、実りの少ないものであるというふうに考えております。

今回は皆さまがたの貴重なお時間をいただきまして、市政の現状をご報告申し上げますとともに、皆さまがたからのご意見を伺える機会であると楽しみにしております。最後に自由討論の時間を設けておりますので、本日はよろしく願い申し上げます。

さて、岡崎市は昨年、市制施行 100 周年という時を迎えまして、ただ今次の 100 年に向けての新たな歩みを始めたところであります。今年度も早いものでありまして、もう既に半年が過ぎようとしておるわけでありまして。7 月 30 日より開催されました岡崎城下家康公夏まつりにおきましては、額田のわん park やイオンモール岡崎など、新たな会場を加えまして、公民連携の事業として盛大に開催してきたところであります。また、この春にゾウ舎のリニューアルオープンを迎えました東公園におきまして、年末から来年にかけて、新たな恐竜の仲間がやってまいります。今回もある資産家の方からの寄付によりまして、この話が実現したわけでありまして。ただ今見ていただいているように、ちょっと大きさが違うんですけども、トリケラトプスの子どもの像が二つありますが、今回、お母さんが欲しいとお願いしまして、親のトリケラトプスができます。

それから、子どもたちに触ってもらって、一緒に写真を撮ってもらいますように、子ども

の恐竜を配置したベンチを作ることになりました。そして、これはジュラシックワールドの映画に出てたスピノサウルスでございます。子どもさんたちに触って遊んでいただける、そういったことで、こういった形のものを作らせてもらっておるわけです。最近、子どもさんたちの目が大変肥えておりますので、全て本物志向で作らせていただきますので、大いにご期待いただきたいと思います。また、新規の動物たちにつきましても、新しく導入することを今準備しておりますので、こちらのほうもご期待いただきたいと思います。

一方、近年豪雨災害が頻発いたしまして、今年も九州の豪雨をはじめ、各地で被害が出ております。本市のレッドサラマンダー、この対話集会の後に皆さまがたにも実際にご覧になっていただきますけれども、先般、車両の派遣などを被災地支援として行ったところでありまして。こういった集中豪雨というのは、いつどこで発生するか分からないものであります。今月の初めに、市内各地におきまして防災訓練を実施いたしまして、多くの市民の皆さまがたにご参加いただき、防災意識を高めていただくことができたと思っております。本市におきましても、市民の皆さんへの正しい情報提供や、適切なタイミングでの避難勧告などに引き続き、災害対策に万全を期してまいりたいと思っております。

次に、まちの魅力の向上を図り、充実した市民サービスを提供し続けるためには、将来にわたって安定した財源を確保することが必要になります。これからは、財政につきましては、現在の本市の経済の柱であります自動車産業を中心としたものづくりに加えて、もう一つの柱として、本市の特徴であります独自の自然景観と歴史文化資産を活かした観光産業というものの育成が重要であると考えております。

そのための第一歩となりますのが、現在着々と進んでおります乙川リバーフロント地区の整備であります。今回のリバーフロント計画と申しますのは、行政によってハードの整備を行うことだけではなく、公共が整備した空間を民間の皆さまがたに活用していただきまして、そこで儲けを出していただくとともに、エリアの価値を高めることで、その結果、行政は税としての収入を図るといった稼ぐシステム作りを目指したものであります。これによりまして、一般の財源確保を図りまして、将来の岡崎の子どもたちのためのまちづくりにつなげてまいりたいというふうに考えております。

こうした趣旨のもと、昨年に続きまして、おとがワ！ンダーランドを開催しているところであります。これは民間の事業者が、豊かな水辺空間を楽しむためのさまざまな仕掛けを施しまして、そこで新たなにぎわいを生み出すといった取り組みになってます。来年の1月まで、朝市や水上アクティビティ、殿橋テラスなど、さまざまなメニューが展開されまして、毎週第4土曜日には、ナイトマーケットや星空観望会といった大人好みの企画も実施されることになっております。明日、9月23日が、その開催予定でもあります。

そして11月25日には、今回で3回目を迎えます中部地方最大級の光の祭典、岡崎泰平の祈りが行われます。これは、岡崎青年会議所が主催となりまして、民間企業のご協力をいただき、開催されるわけでありまして。皆さまがたにも、ぜひ足をお運びいただけたらと思っております。これは昨年のお話でございますけれども、これを行ったときに、ある学校の校長先

生の娘さんがプロポーズをされて、それで結婚が決まったということ、春になってお父さんから大変うれしく話されまして、そういった機会にも使っていただけるのではないかなと思っております。

次に、ハード整備の状況であります。殿橋下流の河川敷の整備がほぼ終わりました、ただ今きれいに明るくなった河川敷におきましては、多くの方が散歩やジョギングなどで楽しんでいただいているわけでありまして、若いカップルだけではなく、親子連れの方や高齢のご夫婦にも親しまれておるところでございます。また、殿橋と明代橋の間では、平成31年度の完成を目指しまして、仮称でありますけれども、乙川人道橋の工事が進みまして、現在、橋脚2基と橋台1基が完成しております、皆さまがたに目で見て整備が進んでいることを実感していただける状況となっております。この橋は、本体はコンクリート製でありますけれども、高欄や床版などの表面には、額田産のヒノキを使いまして、木装風の橋として仕上げたいと考えております。当初、この事業に賛同いただけなかった方から、実際にできた石積み風の橋脚などを見られて、「やっ、あ、あなたがやろうとしていることが分かってきた」、こんな声もいただいたところでありまして。やはり言葉による説明には限界がありまして、今後は一つひとつ形にしていくことで、視覚的により正しく理解していただけるように、進めていきたいと思っております。なお、額田の木材を使うことで、岡崎の地域の60パーセント以上を占めております森林の整備を進めたいと思っておりますし、そのことを併せてアピールしていきたいと考えております。

また、人道橋と籠田公園を結ぶ中央緑道につきましては、平成31年度中の完成を目指しまして、現在、実施設計を進めているところでありまして、電線類の地中化工事に今年度より着手してまいります。今回の整備におきましては、さまざまな世代が一緒になれる公園環境をつくり出し、子どもと一緒に安心して楽しく遊べる、楽しく歩ける場所を提供してまいりたいと考えております。

なお、一部の方から中央緑道のヒマラヤスギを切るなど、こんなお話をいただいたことなんですけれども、ヒマラヤスギという木は大変根が浅くて、倒木の危険性があるわけでありまして。現に先日の台風18号におきましても、避難警報は出ていなかったわけでありまして、倒木が発生いたしました。このことから、樹木医と相談しながら、必要に応じて伐採等の対策も取っていきたくて思っております。今回倒れましたヒマラヤスギは、高さが8メートル以上にもなるものでございますけれども、木の根がわずか40センチほどしかなかったのであります。ちょうど小足の巨人のようなものでありまして、いつ倒れるか分からないものです。にも関わらず世の中には、人々の安全よりも木を優先する人、自分たちのイデオロギーを大切にする人がいるというのは、大変残念なことでありまして。そして、先ほど申しあげましたけれども、決してこうしたハード整備をすることが最終の目標ではなくて、これにより出来上がった空間を使って、いかにまちのにぎわいというものをつくっていくか、このことが一番のポイントであると考えております。

今後は、名鉄東岡崎駅を出発点といたしまして、人道橋、籠田公園、りぶら、岡崎城、乙

川河川敷までをめぐる動線に沿って楽しく歩いていただきまして、人をまちへ呼び込むための工夫や、人々の好奇心をそそるソフト事業の取り組みも進めてまいりたいと考えております。そのキーとなりますのは、おいしい食べ物、面白いおみやげ、そして岡崎ならではのサービスじゃないかと思ひまして、ただ今、関係の人たちとも協議が進んでいるところでございます。この動線でありますけれども、岡崎城の総構え、すなわち総曲輪につながりまして、その形状が Q の字に見えますことから、アルファベットで QURUWA、くるわと名付けておりますので、皆さまにもこの愛称をかわいがっていただきたいと思っております。

またこの秋より、健康づくりを支援するための新たな取り組みといたしまして、スマートウエルネスシティ首長研究会というものに参加いたしました。これは歩いて健康、食べて健康、こういったことをまちの中で実感できますよう、にぎわいの他にも、健康づくりの観点からまちづくりというものを実践していくものであります。市内の公園整備にも、こうした視点を取り入れていきたいと考えております。

そして、東岡崎駅の周辺整備につきましては、東岡崎駅からリバーフロント地区への安全な歩行者動線を確保するため、ペDESTリアンデッキを整備してまいりたいと考えております。中央部分には新たな広場が生まれることとなりますので、完成後はこの場所もイベント会場や朝市、移動ショップのような要素を取り入れた利活用を考えていきたいと思っております。皆さんも、もしいいアイデアがございましたら、ぜひ提案していただければと思います。これまでもそうしてまいりましたけれども、多くの皆さまがたから新しく朗らかなアイデアをいただきました。

また、このペDESTリアンデッキには、これまでさまざまな機会で申し上げてまいりましたけれども、松平元康から徳川家康と改名した 25 歳当時の若き日の家康公のブロンズ製の騎馬像を、川と緑を背景に配置することとしております。家康公像を制作していただきます日本のブロンズ像制作の第一人者といわれてます神戸峰男先生にも、日本一の騎馬像を作るといった熱意をもって携わっていただいております、大変感謝しているものであります。完成の暁には、これは単なる観光スポットというだけではなくて、桶狭間の敗戦という人生の一大ピンチを独立へのチャンスとして天下を統一し、泰平の世を実現した家康公の一生から、困難に立ち向かい、人生を切り開いていく精神を、岡崎の子どもたちに学んでほしい、このように考えております。また、子どもたちが入学試験やスポーツ大会の前などに、この像の前で簡単に祈りをささげた後出掛けるように、そんな場になればなど、こんなふうにも思っております。

なお、先ほど映像でご覧いただきました北東街区の新たな施設を含めまして、これらの施設は、平成 31 年度当初の供用開始を予定しております。同時に、この区域におきましては、路上喫煙やポイ捨てなどを規制する新たな条例の検討も進めておりまして、これから岡崎の玄関口が、快適でさらに魅力的な駅前空間として大きく変わってまいりますので、どうぞご期待いただきたいと思います。

そして、乙川リバーフロント地区の整備に続く取り組みといたしまして、岡崎市特有の歴

史文化資産を活かした歴史まちづくりを進めてまいりたいと考えております。市内には 13カ所にも上ります国の指定の建造物がありまして、これは名古屋と並ぶわけでありまして、こうしたものをしっかりと市民の皆さまがたに啓蒙し、そして、点を線としてつなぎまして、季節ごとのコースというものをわれわれのほうで考えて、これを積極的に観光業者に売り込んでいきたい、このように考えているものであります。

その起点となりますのが岡崎公園でありまして、これからは家康公生誕の城にふさわしい史跡として、再整備をしていく必要があると考えます。殊に公園内などに、戦国時代から江戸期にかけて整備されました堀や石垣は、極めて歴史的価値の高いものでありまして、岡崎城の最大の売り物であると思っております。昨年の菅生川端石垣に引き続きまして、今月初めに開催いたしました、月見櫓の発掘現場の現地説明会では、市の内外から多くの皆さまがたにお越しいただきまして、近年のお城のブームとともに、改めて歴史ある岡崎城跡の持つ魅力というのを認識したところであります。

そして名古屋城と同様に、岡崎城の天守も建築から間もなく 60 年を迎えるわけでありまして、近い将来、城をどのように建て替えるのか、あるいは延命措置を施していくのか、このことを決めなければならない時を迎えます。たぶん今から 10 年か 15 年先になると思えますけれども、私としましては、そのときのために岡崎城に関する資料をきちんとそろえておきたいというふうに思っております。現在、市民の皆さまには自宅のお蔵や倉庫に岡崎城の設計図や見取り図、古い写真が残っていないか、もう一度ご確認いただきたいということを、広報などを通じまして、何度もお願いをしているところであります。現に四国の高松城も同じ試みを行いまして、古い写真が平成 17 年に、なんとイギリスのケンブリッジ大学で発見されまして、お城の再建にはずみがついたということでありまして、旧家の多い岡崎でありますから、同じように発見される可能性は大いにあるというふうに思っております。

そして、これらの事業以外にも、岡崎市全体を見据えたまちづくりを着実に進めております。まず市の北部にあります旧県営グラウンド、仮称龍北総合運動場でありますけれども、ようやく愛知県からの移管が決まりまして、平成 32 年の供用開始に向けまして、整備を進めてまいります。各施設につきましては、メインの陸上競技場を第 3 種公認に向け、全天候型の改修を行いますと共に、観覧スタンドの設置、さらに内側には天然芝を張らせていただきまして、サッカーやラグビーのグラウンドとしても、正式に活用できるように整備してまいります。また、老朽化が著しい 50 メートルプールにつきましては、こちらはもう再整備するのが難しいということでございましたので、県の管理下におきまして撤去していただきまして、その跡に 8 面のテニスコートを作ります。なお、新たなプールにつきましては、多くのご要望が出ておりまして、ただ今別途、場所も含めて調査中であります。今後、さらに皆さまがたにご満足いただける施設になりますよう整備してまいりますので、ぜひご期待をしていただきたいと思います。

南部地域におきましては、先の東岡崎駅と並ぶもう一つの玄関口であります JR 岡崎駅前に、300 人規模のコンベンションホールとオールスイート仕様の高級ホテルをはじめといた

しまして、結婚式場やレストラン、カフェを併設した商業施設が、来月、10月に完成いたしまして、1月から本格的に営業が開始されることになっています。外周には噴水付きの公園や、岡崎駅とつなぐペDESTリアンデッキも整備されてまいります。なお駐輪場につきましては、一足早く7月からご利用になれるわけです。

そして市民待望の藤田学園の大学病院につきましては、こちらのほうは24時間365日の救急医療に対応し、22の診療科と400床の病床を持つ総合病院として、平成32年4月の開院を目指しまして、整備が進められることが正式に決定しております。来月、平成30年の春から建設工事が始まります。さらに、この大学病院の隣接地には、藤田学園監修の健康器具を備えた、ヘリコプターも発着できる駅南中央公園の整備や各種商業施設の進出なども決まっております。これからの岡崎の南部は大きく変わってまいります。もちろん、そうした施設を活かすための接続道路や環境整備が必要でありまして、こちらのほうは国や県としっかり協力して整備してまいりたいと思います。

また、額田地域におきましては、平成30年2月の供用開始を目指しまして、額田支所をはじめとしまして、周辺にあります額田図書館などの機能を集約した額田センターの整備を進めております。さらに市内各地の公園整備での額田の木材の活用や、地域独自の活性化対策につきましても、ただ今、各種検討中であります。これまで公園といいますと、巷では子どもさんの遊び場という認識が主流であったみたいなんですけれども、これからは子どもさんはもちろんでありますけれども、高齢者にとっても憩いやくつろぎの場として、また、市民の健康増進の場所として使えますよう、整備していきたいというふうに考えております。そこにできれば地元産の木を使えないか、こんなことを考えています。

そして、本宿駅の周辺におきましては、駅前の再開発事業に加えまして、新東名岡崎東インターチェンジや国道473号バイパスの整備によりまして、このところ交通の利便性が大変向上しておりますので、そこに目を付けた民間事業者によりまして、アウトレットモールの進出が計画されています。これは、先ほどのインターチェンジ等に加えまして、国道1号、さらには名鉄本線からも近いなど交通のアクセスがいいことや、土岐や長島のアウトレットから50キロ離れている、こういったさまざまな条件を検討のうえに選ばれたものでありまして、一部にはできるかどうかという心配をしておる方もございますけれども、先般、事業者に再確認いたしましたところ、現在、鋭意準備を進めているところであるという返事でもございました。この事業がもし実現すれば、額田地域を含みます東部地域の活性化や雇用に対しましても、大変大きなインパクトがありますので、本市といたしましても、これから積極的に対応してまいりたいと考えております。

その他、矢作地区なんですけれども、矢作川右岸の南北道路の整備を引き続き進めてまいります。サイクリングロード、公園整備などを行う他、JR西岡崎駅におきましても、エレベーターを設けるなどのバリアフリー化も進めてまいりたいと思っております。

そして、スマートインターチェンジの開設につきましては、東名高速道路の阿知和地区が、いよいよ国から準備段階の調査区域として設定されました。引き続きまして、新東名高速道

路のサービスエリア、ネオパーサ岡崎へ隣接したスマートインターチェンジを作りたい、こういうことで準備をしていきたいというふうに考えております。

このように、私の2期目の市政も比較的順調に進んでおりまして、皆さまがたにその成果を、実際に目で見て感じていただけるようになってまいりました。こうした政策の究極の目的は、いつも申しておりますとおり、岡崎の市民、ことに子どもたちが自分たちのふるさとに対して、これまで以上に大きな愛情と誇りを持てる、そんな夢のある新しい岡崎を築き上げることであります。ふるさとに対する愛情とか誇りというものは、与えたり教えたりすることはなかなかできないものでありまして、自らの心の中に自然に湧き上がってくる情念の高まりのようなものではないかと、このように私は思っています。そうした愛郷心が、祖国への愛情や誇りに育っていくものだというように思います。私はそうした心のある岡崎人、日本人が育つまちづくりを目指しまして、これからも各政策をしっかり遂行していきたいと思っております。

そして次の100年を見据えて、福祉や医療、防災や教育といった基本施策の充実はもちろんのこと、さらなる魅力あるまちづくりにまい進してまいりる覚悟であります。今後とも引き続き、皆さまがたのお力添えをお願い申し上げます。私の話を終了させていただきます。ご静聴ありがとうございました。

司会— それでは、まず保育園父母の会会長からごあいさつをいただきたいと思っております。よろしく願いいたします。

会長— 平成29年度の岡崎市保育園連絡協議会会長です。本日の市民対話集会をととても楽しみにしてまいりました。どうぞよろしく願いいたします。

司会— ありがとうございました。それでは要望、提案を事前にお伺いしておりますので、発表していただきたいと思っております。よろしく願いいたします。

団体代表A— よろしく申し上げます。グレート家康公「葵」武将隊が出演依頼のあった園に赴き、演舞や園児たちと一緒に堪忍をどりを踊る活動をしていることを聞きました。とても迫力があり、園児にとっていい思い出になると思います。親からのさらなる思いとして、小さな頃から自分たちのまちへの愛着を感じられるように、踊りの他に岡崎の歴史と文化を伝える活動を、ぜひ「葵」武将隊のメニューに加えていただくことができたらと考えますが、いかがでしょうか。

司会— ありがとうございました。それでは回答のほう、よろしく申し上げます。

市長— いい意見をありがとうございます。「葵」武将隊は、ちょうど私が県会議員の最後

の年に、前の市長さんが作られたものでして。最初話を聞いたときに、商工会議所のおじさんたちが、鎧兜着て出てくるのかなと思っただけなんですけど、そうじゃなくて、本格的な演劇を目指す人たちの中からオーディションをやって、踊れて歌えて演技もできる、こういう人たちを集めて作ったものでありました。私たちの想像以上のクオリティーになっていると思います。各メンバーそれぞれ、芸能の世界に入っておられますので、ときどき新しいお仕事が出て、出て行く人もいますけども、それは私たちも認めたいものでございます。

今年でその「葵」武将隊も7年目を迎えます、岡崎公園内での定期公演および観光客のおもてなしをメインに活動しているものであります。その他にも市の主催イベントへの参加はもちろんとしまして、ご依頼いただければ、民間イベントにも多数参加しているものであります。そこで本市のPRをしていただいているわけでありまして、また、イベントへの参加だけでなく、小学校高学年を対象に徳川家でありまして、武将についてのお話もさせていただいております。毎年行われております徳川家康公の検定試験、「葵」武将隊が受けまして、満点を取った人間が今までに何人もおるようです。

それからご存じのとおり、本市には岡崎城や大樹寺を始めといたしまして、徳川家および三河武士に由来する数多くの歴史的な文化資産があるわけでありまして、小さい頃から身近な歴史文化資産に触れて、生まれ育ったこの岡崎の地に誇りを持てるような、将来的に多くの市民の皆さまが、岡崎の歴史の伝承者となっていただけるようになればと期待しております。

そのために「葵」武将隊の活動の一つといたしまして、園児を対象とした歴史文化教育の実施を検討してまいりたいと思っております。私が折に触れ申し上げておりますとおり、市政運営の究極の目的というのは、岡崎の子どもたちが自分たちのふるさと岡崎に対して、これまで以上に大きな愛情と誇りが持てる、そんな夢のある新しい岡崎をつくりたいというものであるわけでありまして、教室におきましては、楽しんで岡崎の歴史に触れることをはじめといたしまして、徳川家康公や三河武士のことを中心に、みんなが住んでいる岡崎ってどんな所か、こんな観点から小さいお子さんに向けて、分かりやすいクイズやお話、岡崎の歴史にまつわる場所などの紹介や堪能をどりなども考えております。そして、教室に参加しました園児さんが、それぞれのご家庭に戻って、お父さんやお母さんにその話をさせていただきまして、岡崎の歴史に関心を持っていただく方が、さらに増えていけばありがたいと思います。

司会— ありがとうございます。引き続き要望、提案をよろしく願いいたします。

団体代表B— 仕事と子育ての両立ができるように、子どもが病気になったときに、預かってもらえる病児保育施設があると助かると思います。岡崎市は病児保育施設がまだありませんので、現時点の病児保育施設開設について、どのようにお考になっているかをお聞かせください。よろしく願いいたします。

司会－ ありがとうございます。それでは、こども部長、よろしくお願いします。

こども部長－ 日頃は本当に各園で、保育園の運営に多大なご尽力をいただいております。この場をお借りしまして、お礼を申し上げたいと思います。引き続き、よろしくお願いいたします。ただ今の病児保育の関係につきまして、私のほうからお答えをさせていただきます。岡崎市におきまして、病児、それから病後児保育につきまして、まず現状がどうなっているかということから、お話を申し上げたいと思います。

病後児保育でございますが、現在、本市は病後児保育施設を公立の八帖保育園と、それから岡崎げんき館、この2カ所で実施しております。皆さまがたのご要望を伺いながら、今年度からでございますが、八帖保育園につきましては、通常期の延長保育の利用者の方を対象にいたしまして、保育時間を朝の8時から午後4時だったものを、5時半までということで、昨年度までと比べまして、1時間30分長く保育をさせていただくということで、変更させていただきました。少しでもご利用いただきやすいように、環境を整えてきたところでございます。この保育時間の変更につきましては、今年の4月にお子さんを通じまして、保護者の皆さまもご覧になっていただいたかと思いますが、チラシを配布させていただくとともに、岡崎市のホームページにつきましても、こういったことについて周知をしておるところでございます。

それから病児保育ということでございますが、岡崎市の子ども・子育て支援事業計画、「おかざきっ子 育ちプラン」と呼んでおりますこの計画につきましても、先ほどごあいさつをしていただきました会長さん、歴代の父母の会の会長さん、あるいは連協の会長さん、幼稚園の代表者の方、学識経験者、市民公募の方を含めて計画をしておりますが、そういった中でも病児保育につきましては、かねてから、容体が悪化した場合にも迅速な対応が可能な医療機関に併設をした病児保育の施設に関して、関係機関と協議を行っておるところでございますが、感染症に対応しました施設環境整備や、あるいは看護師さん、保育士の人材確保の面で、なかなか課題が多いというような状況でございます。

しかしながら、計画の中にも位置付けられておりますものですから、今後、本市におきましては、今申し上げました医療機関併設型の病児保育に加えまして、保育所併設型につきましても、他市の状況を踏まえて、検討していきたいと考えております。いずれにいたしましても、本市の実情に合ったニーズに対応できるような事業の実施に向けまして、近隣の市町村の状況を参考にしながら、関係機関と協議していきたいというふうに考えております。以上でございます。

司会－ よろしかったでしょうか。

団体代表B－ はい。

司会－ それでは次の要望、提案をよろしくお願いします。

団体代表C－ 共働き家庭や核家族の増加、祖父母の就労や介護等の社会情勢を受け、児童育成センターの定員を増やすとともに、学童保育施設と放課後児童クラブの設置、および増設をしていただけると、安心して子育てができるようになると思いますがいかがでしょうか。よろしくお願いします。

司会－ ありがとうございます。それでは回答をよろしくお願いします。

こども部長－ こちらも私のほうから回答させていただきます。まず放課後児童クラブでございますが、留守家庭児童の子どもさんの放課後の居場所づくりを提供するものでございまして、現在、岡崎市の公立の児童育成センターが41カ所、それから、民間の「岡崎がくどうの会」という所と「学童太陽クラブ」、いずれもNPO法人が運用してみえる所でございますが、そちらが8カ所ございます。8月末現在で、総勢2,676人、内訳としては公立で2,221人、民間のほうで455人のお子さんをお預かりしている状況でございます。ちなみに、小学校の1年生から6年生までで、大体2万3,000人弱みえますので、1割強の方が、そういった放課後の施設を利用させていただいておるという状況でございます。

これにつきましても、先ほどご説明しました「おかざきっ子 育ちプラン」、本市の子ども・子育て支援事業計画でございますが、こちらに基づきまして、平成27年度から31年度までの5カ年間計画で、17カ所の児童育成センターを整備する計画でございます。これにつきましては、順次整備を進めておりまして、27年度、それから28年度で既に8カ所、合計355人分を整備させていただいたところでございます。29年度、今年度につきましても、常磐、六ツ美北部、細川、北野で順次整備を進めております。

しかしながら、こういったことで、今日もご要望があるようでございます。国のほうの児童福祉法というものに基づいて、われわれはいろいろな事業をしておるわけですが、それが27年度に改正されまして、高学年の方、4年生から6年生まで、そういった方も受け入れるということになっております。このように幅が広がったということと、児童育成センターの整備を進めてまいりましたことが、潜在的な需要を喚起したということで、急増する利用ニーズがございます。そういったことで、大変申し訳ないのですが、待機が生じております学区もあるというのが実情でございます。一部の地区にはない所もございますが、学区こどもの家の利用も含めまして、子どもさんたちの安全、安心な居場所づくりに努めてまいりたいというふうに考えております。以上でございます。

司会－ よろしかったでしょうか。

団体代表Cー ありがとうございます。

司会ー それでは次の要望、提案をよろしくお願いします。

団体代表Dー 岡崎市は、乳幼児や学童期の子どもが、雨の日でも遊ぶことができる施設がないので、近隣の市にもある子どもと一緒に遊びに行くことができる施設があると、子育てがよりしやすい岡崎市となるのではないかと思います。いかがでしょうか。よろしく願います。

司会ー ありがとうございます。それでは回答をこども部長、よろしく願います。

こども部長ー ただ今の、雨の日にもお子さんと一緒に遊びに行ける施設として、近隣市では、例えば豊田市の鞍ヶ池公園の中にある施設だとか、あるいは豊橋市の「ココニコ」、そういった施設があるというのは承知をしとるわけではございますが、まず本市についてでございますが、雨の日にお子さんと一緒に遊びに行っていたり施設として、ご承知かと思っておりますが、りぶらにございます子ども図書室だとか、おかざき世界子ども美術博物館の親子造形センターなどをぜひご利用いただければ。まだまだ使われたことがない方もおみえかと思っておりますので、そういったものを使っていたらいいと思っております。

この他にも、乳幼児が遊べる施設として、城北保育園の3階にございます総合子育て支援センター、あるいは市内5カ所の地域交流センターにつどいの広場がございます。それから、保育園の園庭等を開放させていただいております子育て広場、これが各地域の地区子育て支援センターはじめ20カ所ございます。そして、岡崎げんき館にも子ども育成ゾーンというものがございます。こういったものをご利用いただければと思っております。

加えまして、学童期の子どもさんを対象とした施設として、岡崎市は他市にはない独自の先進的な施設ということで、市内に43カ所の学区こどもの家がございます。学区こどもの家は、小学生のお子さんだけでなく、平日午後の早い時間帯、具体的に申し上げますと、職員がおります午後1時から、小学校の方がみえます3時頃まででございますら、保護者の方同伴で乳幼児が遊んでいただくことができます。ただし、それぞれのこどもの家で利用状況等々が異なっていますので、ぜひ一度遊んでみたいというご希望がありましたら、直接こどもの家の職員のほうへ、利用方法等についてお尋ねいただければ幸いです。

これまでも、こういった今回のような「施設を造ってほしい」という要望がたびたびございますが、大変恐縮でございますが四字熟語を言わさせていただきますと、晴耕雨読という言葉にもあるように、晴れた日には四季折々の自然に触れていただきながら、外で思い切り体を動かして遊んでいただいて、雨の日には、親子で読書していただいたり、あるいは工作をしていただいたりして、過ごしていただくことも大事だと考えております。それから、雨の

日ということではないんですけども、外遊びっていうことでありましたら、岡崎市は岡崎公園をはじめ、小さな公園から大きな公園まで 240 カ所もの公園がございます。中央総合公園、東公園、南公園といった所、あるいは足を延ばしていただいて、わん park もございます。特に東公園は、先ほど市長さんの話の中にもありましたけども、ゾウ舎のリニューアルですとか、恐竜の仲間が増える、あるいは、この間 2 頭子どもが生まれたカピバラ、これは竹島水族館から一時的にこちらへってことでございますが。

市長さんのほうからは、新規の動物を今、検討中ということでございました東公園、あるいは南公園にも、ご承知のように安く遊んでいただける遊具がございます。近隣の市町村から親子で遊びに来ていただいているというわけでございますので、いま一度、学区ごどもの家とか公園を、これから公園につきましては、いいシーズンかと思っておりますので、これをご利用いただいて、親子の触れ合いを深めていただけたらなというふうに考えております。以上です。

司会— よろしかったでしょうか。ありがとうございます。事前にいただいているご要望は以上でございます。それではこの他にご意見等ございましたら、お伺いしたいと思いますので、ご意見のある方は挙手をお願いできればと思います。

よろしいですか。せっかく市長も担当部長もおりますので、どんなことでも結構です。ご意見あれば、よろしかったでしょうか。それではご意見がないようでございますので、最後に市長よりごあいさつを申し上げたいと思います。

市長— 今日は日中の大変お忙しい中、こうしてわざわざおいでいただきまして、重ねてお礼を申し上げたいと思います。このような話をするときなどは、この際市長に文句を言いたいということがあるというのを見とるんで、話をしとるわけでございますけども、今日はあんまり難しいほうの話じゃなくて、大変ありがたく思っております。何にいたしましても、私たちは大体議会で審議をして、そこで通れば市民の同意を得たということで、始動をしてしまうものなんですけども、そういうやり方ですと、なかなか市民の一般の方に、ご理解いただけないことがございました。できる限りこうして直接的に、今岡崎市がどういうことをやろうとしているのか、こういうことをお話しいたしまして、最後にはどんな質問でも結構ですと。極めてプライベートな問題をいただくこともあるわけでございますけども、そういうことを話しながら、行政を進めておるわけでございます。

今日も、いただきましたご意見の全てにお応えできたわけではないんですけど、限られた財政の中で、できる限り、必要性の高いものから順番に皆さま方のご要望に応える努力をしております。すぐできないものもあるかもしれませんが、私たちもいろいろと模索し、考えております。何か、こういった問題があるよ、こうしたらよくできるんじゃないか、こういうご意見がありましたら、遠慮なく市のほうに申し出いただきたいと思っております。今日は本当にありがとうございます。これからもよろしく願い申し上げます。